

やまゆり

学校だより

令和5年12月14日
67号
学校長 杉本賢二

校訓 「和の心」
学校教育目標 「社会に貢献しながら自立する生徒の育成」一気づき・考え・実行するー
校内研究重点 「個別最適な学びと協働的な学びで、主体的に学習する生徒を育成する」

学校教育目標重点 「生徒の良さを伸ばすための連携」

「鈴木ひろみ先生」の社会の公開授業で小中合同研究会をしました

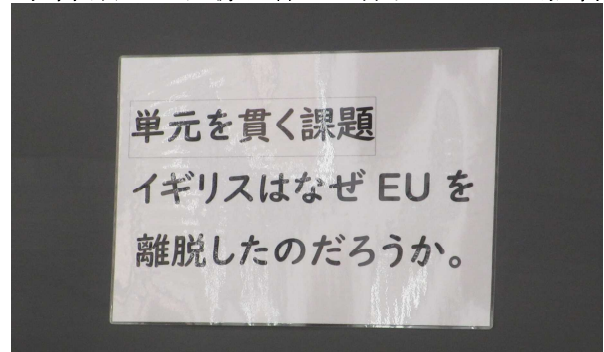
12月13日(水)の5校時に鈴木ひろみ先生が1年生で社会科の学習指導を公開しました。この学習指導によって「令和のやまなし教育活動モデル事業」の実践を小中学校の教職員と一緒に見て、合同で研究を推進することが出来ました。また、1年生の学習の様子を佐藤教育長も参観し、研究の推進の様子を視察しました。

この学習指導・研究会には富士・東部教育事務所の三浦指導主事にも参加して頂き、「鈴木先生」の指導から学ぶ点について指導をしていただきました。

研究主任の高村先生を中心に、全職員が一丸となって「個別最適な学びと協働的な学びで、主体的に学習に取り組む生徒の育成」に向けて努力しています。また、小中の教職員が連携・協働して研究しています。今後も、努力を継続します。

学習指導者 鈴木ひろみ先生 1年の社会科

学習課題は目標達成・主体性に大きな影響



小学校・中学校・教育委員会等20名以上が参観しました



「鈴木ひろみ先生」の実践から明らかにしたこと

1 小中連携の研究の重要性

- ◎小中の先生方が、道志の生徒への授業を参観し、協働研究する
- 研究授業での参観者のマナーの確認
- ◎「個別最適な学習指導と協働的な学習指導」で生徒が自ら学ぶ学習の実践を公開

2 令和のやまなし教育活動モデル事業の主旨の理解

- いかに教職員が指導するか → ◎児童・生徒がいかに自ら学ぶか
- ・自由進度学習(セレクト学習)・生徒の主体的な学び・自立型学習の推進
- ・イエナプラン 異学年協働学習
- 本校 主題 **個別最適な学びと協働的な学びで、主体的に学習する生徒を育成する**
- 副題 ～組織でWEBQUを活用した安定と活性化を通して～

3 自由度の高い学習を成立させる基盤

- ◎「一人一人の心理的な安全」の確保 → 「学級の安定と活性化」の両立
- ↓
- ◎自分の思いを表現し、非難・否定されないで聞いてもらえる信頼性
- ※安定していても指導に従うレベルでは、主体的な学習はできない

4 安定と活性化を両立した学級を組織でどのように実現するか

- 本校の3学級とも安定と活性化を両立した最上位の状態 → ○標準化検査で検証・実証
- ◎学級間・担任の差をなくし、全ての学級を安定・活性化させることを組織で実現している
- ※東京都国立高校での3学年持ち上げの伝統→学級内での序列化問題の改善必要が話題

5 単級の学級経営の難しさと良好さを維持できた時のメリット

- ◎前学年の学級状態が良いと、次の学年でも4・5・6月の早期に満足度の高い学級を実現

6 「個別最適な学習」の指導

- ① **学習指導の目的 学力の育成のための研究**
- ② 個別・協働・対話・深い・ICT・表現・コミュニケーション 評価の対象ではない
- ※実現できるとメリットもある。しかし、評価の対象ではない
- ③ 個別か協働かの前に生徒が一人で集中して取り組める楽しさ・知的好奇心等を満たせる学習指導の重要性
- ④ **単元を貫く課題の重要性** 「イギリスはなぜ、EUを離脱したのか」 **創造力・内容拡散**

- ⑤ ○机間指導による 個別指導の重要性 誰の何を見て、どのように指導するのか
- ⑥ ○各自の自分の考えの形成 ×根拠 知識・技能を自ら調べる・活用する
 ・ヒエラルキーの解消 ●分かる子・出来る子に答えさせて授業を進めることはしない
- ⑦ 能力差への対応 ○最低限1つの課題解決 B評価達成
 ○理解度の高い子は、難易度・量に応じて進める
- ⑧ 非認知能力の育成

認知能力の向上は難しい ※ (IQ向上は難しいと言われている)

- 1) 非認知能力は認知能力に大きく影響する
- 2) 10代は特に成長させることができる
- 3) 自らの学習体験を通さないと育成できない

具体的に育成したい「非認知能力」

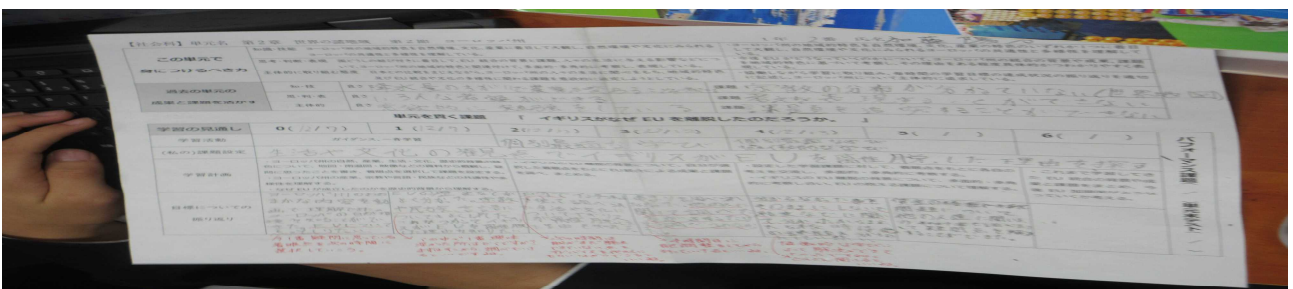
- 自己肯定感 (自分は自分で良いと思える)
- 自己効力感 (やればできる)
- 課題対応能力(困ったことを改善する) → 他者信頼感(他者を信頼できる)

○自己調整力	めあてとのズレを調整する力
○粘り強さ	簡単に諦めない

主体性 評価の対象

- ⑨ 振り返りの大切さ 実践することの重要性
 - メタ認知能力 学力に大きな影響
 - 具体的に話せる力の育成 ×「交流して理解できました」では足りない
 - めあての達成 自己調整力 粘り強さの記述
- ⑩ 学習キャリアパスポートの活用 ※個別最適な学び
 - 自分の学習の特徴を生かす 自己選択・自己決定・計画立案・課題改善・協働学習
 - 教検式認知能力検査の活用 (NINO活用)を活用する

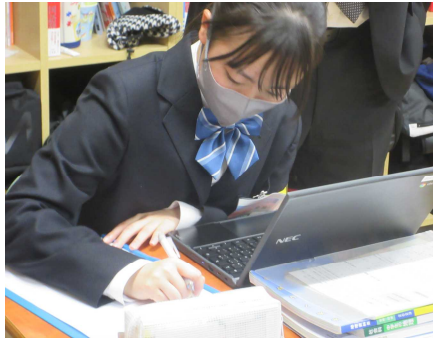
1年生の社会科のキャリアパスポートの記述の様子



学習の流れを説明する鈴木先生



集中して課題に取り組む様子



個別に助言する指導



主体的に協働活動する生徒の様子



学びの振り返りを発表する生徒の様子



研究主任 高村先生・指導者 鈴木先生

小中の教職員で協議 Aグループ



Bグループの協議の様子

Cグループの協議の様子



各グループのまとめを発表する中山先生・外川先生・組谷先生

指導主事 三浦先生



